NEWS RELEASE

立命館大学

2024. 10. 4

京都大学記者クラブ加盟社　各位　　＜配信枚数 2 枚＞

■カメラによる非暴力のたたかい■

2024 年度 立命館大学国際平和ミュージアム秋季特別展
【関西初】「阿波根昌鴻：写真と抵抗、そして島の人々」開催

会　期：11 月 5 日（火）～12 月 21 日（土）

場　所：立命館大学国際平和ミュージアム

立命館大学は、沖縄・伊江島で米軍の強制的土地接収に対して「土地闘争」と呼ばれる非暴力の抵抗運動を展開した、阿波根昌鴻ら伊江島の人びとの戦後体験を描き出す写真展を、2024 年 11 月 5 日～12 月 21 日の期間、立命館大学国際平和ミュージアムで開催いたします。阿波根昌鴻の作品を紹介する写真展は、関西で初めての開催となります。

沖縄本島北部の離島・伊江島は、沖縄戦で住民の約 3 分の 1 の命が奪われ、戦後も米軍占領により島の約 6 割が軍用地として接収されるなど、住民たちの苦難が続きました。1950 年代には米軍による強制的土地接収に対する住民たちの抵抗運動が巻き起こり、その土地闘争の先頭に立っていたのが阿波根昌鴻（1901-2002）です。阿波根は米軍との闘いのなかで、あらゆる証拠や記録を残すことを徹底し、数多くの写真を残しました。阿波根のカメラは伊江島でただ一台のカメラでもあり、こうした土地闘争に不可欠な抵抗手段であったと同時に、住民たちの日常を記録するための大切な手段でもありました。阿波根の生前唯一の写真集『人間の住んでいる島』（1982 年）にも収録されることのなかった、これら伊江島の人びとの日常や肖像を写し取ったポートレート写真（阿波根撮影、3000 コマ以上）は、阿波根たちの土地闘争が何を守ろうとしたものであったのかを考えるための貴重な資料です。

本展示では、このような阿波根昌鴻が 1950 年代後半から 1960 年代にかけて撮影した写真のうち約 350 点を展示し、戦後沖縄・伊江島の経験から、現在もなお戦争や占領・開発などによって、かけがえのない「土地」を奪われている人びとの経験を振り返ります。

記

会　　期　：**2024 年 11 月 5 日（火）～2024 年 12 月 21 日（土）**
9:30～16:30（入場は 16:00 まで）　※休館日：日曜日、祝日の翌日

場　　所　：**立命館大学国際平和ミュージアム 1 階中野記念ホール**
京都市北区等持院北町 56-1

内　　容　：別紙をご覧ください

入 館 料　：大人 400 円、中学生・高校生 300 円、小学生 200 円

主　　催　：立命館大学国際平和ミュージアム

共　　催　：一般財団法人・わびあいの里、島の宝・阿波根昌鴻写真展実行委員会

後　　援　：沖縄県、伊江村、伊江村教育委員会、NHK 沖縄放送局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、KBS 京都

協　　力　：阿波根昌鴻資料調査会、東京工芸大学、小原佐和子、原爆の図丸木美術館

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先
立命館大学国際平和ミュージアム　担当：大月
TEL. 075-465-8151　Email. museum-1@st.ritsumei.ac.jp

別紙

●展示内容

□写真(デジタルプリント)約 350 点

□実物資料約 15 点(日記、カメラ、陳情書、核模擬爆弾など)

●関連企画

(1)連続講演会

第 1 回:11 月 23 日　13 時～　トーク「阿波根写真と伊江島の人々」

登壇者:比嘉豊光氏(写真家)、高科真紀氏(国立民族学博物館助教)、小原真史氏

第 2 回:11 月 30 日　14 時～　トーク「伊江島、奪われた土地をめぐる経験から考える」

登壇者:新城郁夫氏(琉球大学教授)、大野光明氏(滋賀県立大学准教授)

(2)映画上映会&トーク:12 月 7 日 14 時～「〈非暴力〉という生き方――阿波根昌鴻から何を学ぶか」

登壇者:大畑豊氏(わびあいの里)、君島東彦氏(立命館大学国際平和ミュージアム館長)

(3)ギャラリートーク

11/22　13 時～　小原真史氏(本展キュレーター、東京工芸大学准教授)